

特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議 庭園部会（第38回）

議事録

日 時 令和6年9月2日（月）14:30～16:25

場 所 西の丸会議室

出席者 構成員
丸山 宏 名城大学名誉教授 座長
仲 隆裕 京都芸術大学教授 副座長
高橋知奈津 奈良文化財研究所文化遺産部遺跡研究室室長
(リモート)

オブザーバー
平澤 毅 文化庁文化財第二課主任文化財調査官
野村 勘治 有限会社野村庭園研究所
山内 良祐 愛知県民文化局文化部文化芸術課文化財室 技師

事務局
観光文化交流局名古屋城総合事務所
教育委員会生涯学習部文化財保護課

議 題 ・二之丸庭園の発掘調査について
・二之丸庭園の修復整備について

配布資料 特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議 庭園部会（第38回）資料

事務局	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>本日は、ご多用の中、第 38 回特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議庭園部会にご出席いただき、誠にありがとうございます。また、先ほどは暑い中、現地視察をしていただき、誠にありがとうございました。本日の部会の議題は、二之丸庭園の発掘調査について、前回の部会で話題となりました、余芳周辺の洲浜および二之丸庭園北西部について発掘調査範囲を検討しましたので、ご意見を賜りたいと考えております。また、議事、二之丸庭園の修復整備について、余芳周辺の整備にあたって、石橋、燈籠、木橋などの復元方針等について、ご意見を賜りたいと考えております。限られた時間ではありますが、皆様から貴重なご意見を賜りながら進めていきたいと存じますので、何卒よろしく願いいたします。</p> <p>3 構成員、事務局、オブザーバーの紹介</p> <p>4 今回の議事内容</p> <p>資料の確認をいたします。会議次第と、裏面に出席者名簿。A4 の両面のものが 1 枚。資料 1 として、A3 のものが 2 枚です。資料 2 として、27 ページのものが 1 部です。</p> <p>それでは、議事に移ります。ここからの進行は、丸山座長、よろしく願いいたします。</p>
	<p>5 議事</p> <p>(1) 二之丸庭園の発掘調査について</p>
丸山座長	<p>今日は、2 つ議事がありますので、1 つ目の二之丸庭園の発掘調査について、事務局よりご説明をお願いします。</p>
事務局	<p>調査は、近世の御庭の外にあたる外縁調査区と、お庭の北池周辺にあたる庭園調査区の 2 つのエリアで行う予定です。庭園調査区は 2 か所あける予定です。調査区位置は、調査における重機軽量場所や排土置き場などを含めた現状変更範囲を、1 ページの右側の図 1 にお示ししています。外縁調査区の実際に調査をするところが、2 ページの図 2 に、庭園調査区を図 4 にお示しました。各調査区について、ご説明します。</p> <p>外縁調査区は、近世の御庭の北西の角の検出と、現在、埋門北側で確認できる石樋につながる溝の確認、迎涼閣の基礎の確認、南蛮練塀の基礎の確認を目的としています。近世のお庭の北東角については、過去に周辺の調査で御庭の北辺と西辺を確認しています。外縁調査区は、その北辺と西辺の延長上に位置しているため、角部の検出ができると考えて</p>

	<p>います。石樋は、石樋につながる溝の確認と、石樋の時期の指定も行えればと考えています。迎涼閣は図3にもお示ししていますが、二之丸の北西隅に位置する櫓で、古写真でも確認できます。迎涼閣は明治以降になくなり、陸軍がその後演舞場を建て、今は更地になっているので、礎石等の検出ができると考えています。南蛮練堀は、過去に別の地点、3か所で調査をしています。基礎構造が十分に把握できていないため、今回は調査区の範囲を広げて確認したいと考えています。迎涼閣や南蛮練堀の基礎の広がりをお確かめしたうえで、二之丸庭園の北側一帯の排水計画の検討もできればと思います。調査は、周辺の過去の調査区で検出されている、各時代の遺構面が面的に接続するかどうかを確認しつつ、各遺構を検出していきます。一部、石垣際での調査になるので、石垣際は全体をあけることなくトレンチ状に掘削をして、安全にも気をつけたいと考えています。</p> <p>続いて庭園調査区です。北池の具体的な整備内容を検討する中で、不明確な箇所がでてきたため、それを明らかにするために2か所の調査区を設定します。不明確な箇所の1つが、前回の庭園部会で整理した、北池の北岸の礫敷遺構です。過去の記録などから、タタキと礫敷の範囲は一致せず、間に不均一な厚みの土が入るため、タタキの遺構が廃絶したあとに、礫が敷かれたと推定しています。礫敷の下層のタタキの広がりの中に、方形や円形の土坑が確認できました。その土坑が、飛石などの石の据え付け、または抜き取り痕と推定しています。この飛石とタタキの前後関係や時期、施工方法を確認し、整備に活かすために庭園調査区1の発掘調査を実施したいと考えています。調査方法は、埋め戻し土を除去したあとに、土坑の半切と、一部礫の取り外しを行い、土坑内部の様子などを確認します。</p> <p>続いて、庭園調査区2は南側のほうの調査区になります。調査区1と同様に礫敷遺構が広がっているところがあるため、時期や性格を調べるために発掘調査を行います。併せて、池底のタタキにあけられた穴も調査をし、池底のタタキの時期や年数、壁面のタタキとの違いについても調査したいと考えています。庭園調査区2では、礫敷のほか橋台とタタキの護岸部分が調査区内に位置しています。これらの構造と構築年代の調査もしたいと考えています。</p> <p>庭園調査区1と2は、過去の調査区と重複しているので、埋め戻し土を除去したあとに、必要に応じて最小限の断ち割り調査をする方法を進めていきたいと思っています。</p> <p>これで、ご承認いただけたら、全体整備検討会議でもう一度ご議論していただき、現状変更を進めていきたいと思っています。</p>
丸山座長	1つ教えてください。迎涼閣のあたりは、クロマツがいっぱいありますが、あれは伐倒して整備するのですか。
事務局	マツの一部は1本切る計画で、いずれは切る木が1本ありますので、その木を切ったあとにできればと思っています。
丸山座長	<p>石垣が近くて、あれは切らなければいけないと思っています。この際、切れるものは切ったらどうかと思います。</p> <p>ここの礎石をまず出してもらって、将来的にそういうことも検討してほしいです。礎石を痛めているのではないかという気がします。</p>

事務局	まだ礎石があるかどうかという段階なので、そこはわからないですけども、もしあれば確かに、痛めている可能性はあります。
丸山座長	それと、これだけ広いところをどこまでの深さをやるのですか。前に基盤があった80cmから1m近くまでですか。
事務局	そうです。
平澤オブザーバー	それは、端のほうですか。
丸山座長	いえ、端のほうではなくて、ここ全体を。
事務局	1番深くて、確か1.2mくらいのところで近世の遺構面であろうというのが出てきましたので、近世の遺構面を出すのが目的ではありますので、最大で1.2mくらい掘ることになるのかと思っています。南蛮練堀の直下のあたりなどは、土塁状に高まりがあったりするところもあるので、そこら辺は60cmで済むところもあります。掘削の深さは場所によって変わってきます。
丸山座長	石樋のところは、将来的に重要なところになると思いますので、ここは点々が書いてありますけれども、石樋を追っかけて、ここは掘ってもらいたいと思います。追っかけるのですか。
事務局	石樋を追っかけた予想ラインを付けています。庭園の境界予想ラインの少し外側に、ちょうど庭園の東側では溝と堀が伴って検出しているところがあります。もしかしたら溝がずっと境界ラインを、続いて施工されていて、石樋の延長上から石樋に向かって伸びていくのかもしれないです。いったん近世の遺構面で揃えて、石樋を示す特に何かが出てきたら、立ち割を入れて調査をするつもりです。
丸山座長	図5の礫敷のところですが、北のほうは先ほどいわれた兵舎が、接しているのですか。
事務局	兵舎の掘方に、掘り込まれているのではないかといいるところです。礫敷と兵舎でいうと、兵舎のほうが新しいという検討です。過去の記録が、報告書が出ないまま、ずっと続いてしまっており、写真が見当たらないなどいろいろな問題があり、確実なことではないですけども。
丸山座長	タタキの穴は、その下まで断ち割るのですか。どういう発掘の方法ですか。
事務局	穴を検出し、半切して半分は底まで掘るつもりです。
丸山座長	そうするとタタキがあって石が乗っていた。あるいは、その構造がわかるということですか。
事務局	そうです。遺構の残り状況によりますけれども、そもそもタタキがあ

	<p>るのか、ないのか。下の土が粘質なのか、砂質なのか。もしかしたら遺物が入っていて、細かい年代がわかるかもしれないです。</p>
丸山座長	<p>現場でもお話ししましたが、昭和 28 年に名勝に指定されている時に、化粧的に礫を池底に撒いたりしているの、そういう関係の礫敷ではないかと言われています。そのあたりも、ひょっとしたらそういうこともあるかもしれないという目で見ていただきたいです。</p>
事務局	<p>わかりました。</p>
丸山座長	<p>池底だけを修景したというのは、信じられないので、まわりもやったのではないかという気がします。</p>
事務局	<p>一応写真が、池底に詰められた礫で、大きさは、タタキの上に乗っている、調査区の中の礫敷と結構大きさが違って、こちらのほうがだいぶ大きいです。可能性はあるので、かく乱の前後関係などを見ながら、名勝指定に伴うものかどうか調べていきたいと思えます。</p>
丸山座長	<p>これは我々は知っているが、この状況を知らないですね。</p>
事務局	<p>写真でしか見たことがないので知らないです。</p>
丸山座長	<p>この円礫は、どこかに保管してあるはず。堀の中に。知らないですか。</p>
事務局	<p>調べてみます。</p>
丸山座長	<p>どこかに保管してあります。</p>
事務局	<p>探してみます。写真で見る感じだと、濃飛流紋岩ぽいです。堀底も当たってみます。</p>
丸山座長	<p>この礫もどこかで使わないと、もったいないなと思えます。ほかは、いかがでしょうか。</p> <p>もう 1 つは、図 5 の橋のところ。微妙に範囲が、立ち上がりのタタキのところが含まれているような、含まれていないような感じ。もう少し含まれている範囲をやったらどうかと思えます。</p>
事務局	<p>北東角のほうを少し大きくします。</p>
丸山座長	<p>写真で前に見せてもらったとき、だいぶ崩れていました。ぱっと見は、立ち上がりの裏手は土です。裏込めもないし。そのへんをまた、修正した図面を描いてもらったほうがいいです。</p>
事務局	<p>わかりました。全体整備のときに、北東が一回り大きくなる図面を用意します。</p>

丸山座長	あと気がついたところはありませんか。ほか、いかがでしょうか。
仲副座長	これは、何か説明していただけるのですか。
事務局	これは、調査区には入っていないです。一番見やすいところなので、一例として、タタキの護岸が取れたあとの堆積の様子確認、現状になります。こういうところが調査区内にかかっているの、削るようにして新しい土を見てみようという、その写真がそうです。実際に調査するのは、ここになります。
仲副座長	これは、調査区1ですか。
事務局	調査区2です。丸山先生がご指摘された北東の角の広げるところになります。
丸山座長	立ち上がりの構造を、どこかでしっかり見ないといけないから。次の段階になったら、だいぶん先になるのではないかと思います。
事務局	そうですね。せっかくの機会ですので、しっかり調査したいと思います。
丸山座長	はい。
仲副座長	このタタキの外れたところは、その破片の部分はなくなっているのですか。そのとき外して、どこかに保管してあるのですか。
事務局	この図面自体が、資料1の図5が、2013年の図面になります。
仲副座長	ないですか。
丸山座長	外れたところを保管することは、ないですね。
事務局	このときの調査写真で、穴がすでにあいていましたので。
仲副座長	なかった。
事務局	多分、はい。
仲副座長	タタキの構築時期を考えるとということでしたが、以前サンプルをいくつか分析されていますよね。
事務局	はい。
仲副座長	そういうデータと照合して、ということになりますか。
事務局	分析だと差はでてきます。時代がわからないので、背面の堆積状況、例えば地山の直下にあるのか、ないのかで、築城期かどうかはわかった

	りするので、堆積の感じと、遺物が出ればその遺物の年代というように、考古学のほうから年代がわかればと思っています。
仲副座長	わかりました。この部分は、前回の会議のときに、目的について十分意見が出たところですので。それに即した計画になっているので、ぜひ進めていただきたいと思います。
事務局	わかりました。
丸山座長	ほかは、いかがでしょうか。 そうしたら、全体整備検討会議に出していただいて、現状変更へ進めてください。どのくらい赤の線をもっていくのかというのは。
事務局	スケールでいうと、75cmくらい。1mくらい。
平澤オブザーバー	確認をするところを包含するように、長方形で書いたらどうですか。
事務局	わかりました。
平澤オブザーバー	漏れがないように広く。南東隅のところ何とかではなくて、必要な護岸のところは全部組み込まれる長方形にしてください。
事務局	大きめの長方形にします。
平澤オブザーバー	それは、全部掘らなくてもいいので、調査対象範囲って書いてもらえればいいです。
事務局	はい、わかりました。
丸山座長	それでは、これは全体整備検討会議のほうへ。図は少し修正していただいて、今、平澤調査官から適切なアドバイスもいただきましたので、それをお願いします。
	(2) 二之丸庭園の修復整備について
事務局	資料2をご覧ください。今回は、余芳周辺整備の各要素となる石橋、燈籠、木橋、立ち手水鉢、枝折戸、袖垣の復元方針について、ご意見をいただきたいと思います。資料1、1ページ目は、古絵図の検討方針についてです。石橋についてです。先ほど現地でご覧いただいたものです。2ページ目は絵図です 3ページ目は発掘調査の結果になっています。現場を見られたとおり、南側の護岸のほうに20cm程度高い状況が見られます。権現山階段下の石橋については、北側が30cm程度高い状況になっています。 4ページ目は、類例の調査結果です。青色の部分が絵図や遺構から想定される条件に合致していることを示しています。 5ページです。先ほど現地を見ていただいたものです。石橋、本日設置したものは18cmの厚みのものになります。2-6の断面図になりま

す。現地でご意見いただいたとおり、18cmではやや厚すぎるので、15cmを基準とし、端部をもう少し加工したいということで、現地に合うかたちで、もう少し削っていく加工をしていきたいと考えています。例えば、三の丸庭園を参考にしながら進めていきたいと思います。材質は、古材でいいのがあれば検討していきたいと思います。幡豆石とか、また、岡崎の石などでも検討していきたいと思います。

次に6ページ、雪見燈籠です。本日見ていただいた雪見燈籠になります。左側が絵図との比較で、右側が類例です。見ていただいたとおり、特別名勝の兼六園の雪見燈籠を参考にしていきたいと考えています。

7ページです。これはまさに本日お見せしたとおりのパネルです。高さ1.5mがちょうどいい大きさではないかということで、1.5mのものを基準にして検討を進めていきたいと思います。平面図は、雪見燈籠の設置する位置になります。この範囲で足が3本立つので、3本中2本が16番の石に乗ってくる形状になります。石の上に乗せるにあたっては、石組自体をやや掘り込んで、燈籠の足がずれないように設置したいと考えています。8ページは、兼六園の雪見燈籠です。

次に9ページです。余芳の西側の池のまわりところの雪見燈籠になります。左側が絵図との比較で、右側が類例等になります。このあたりは名勝天赦園や名勝縮景園のものが近いと考えました。

10ページをご覧ください。構造の検討です。復元は写真のような古材を検討し、適切なものがなければ製作をしたいと考えています。高さは、絵図を見ると北園池の北側で紹介した雪見燈籠よりも、かなり小さく描かれていますので、絵図よりも2尺程度小さいものを想定して、高さ90cmとしています。高さ90cm、3尺のものであれば、写真のような古材も存在するというので、高さ90cmで設定しています。

立ち手水鉢になります。余芳の西側の立ち手水鉢について、11ページをご覧ください。左側が絵図のまとめで、右側が構造の検討になります。六角形の立ち手水鉢は、大名庭園、名勝庭園での類例の抽出が困難で、非常に流通が少ない状況です。写真のような古材を検討し、適切なものがなければ、製作することになります。高さは120cmとし、絵図から雪見燈籠と同程度に見えるので、余芳から池側に向かってGLがやや下がっているのを、余芳側で使うことを考えると少し高めのものではないかと考え、高さを1.2mと考えています。

次に、余芳の南側の四角型燈籠について、12ページをご覧ください。左側が絵図をまとめたもので、右側が古写真を検討したものになります。古写真の青で書いたところですが、立ち手水鉢の天端と四角型燈籠の笠の部分、同じくらいのレベルにくるのではないかということがわかります。

13ページをご覧ください。左側が類例で、右側が構造の検討です。余芳南側の立ち手水鉢については、高さについては、立ち手水鉢自体の高さが93cmあり、手水鉢の台となる台石の高さがGLから13cm程度あります。立ち手水の天端は、GLから約1mとなります。また、古写真において、立ち手水鉢の天端高と四角型燈籠の笠の軒高は同様であるので、四角型燈籠の軒高を約1mとし、図に描いたようにしています。調達については、写真のような部材を検討していきたいと考えています。

14ページをご覧ください。標柱です。左側が絵図をまとめたものです。右側が、前回の部会で天端の丸印が何を表すかが話題になりました。天端の丸だけでは、膨らんでいるのか、凹んでいるのか、なかなか半判別

がしづらいので、絵図のほかの石造物を参照しました。図2-28、図2-29をご覧くださいと、分岐の箇所には立ち手水鉢があります。また、御植木屋には四角型手水鉢があり、表現が似通っていることで、最初の標柱が立ち手水鉢も兼ねたものではないかと、この資料では推察しています。

15ページをご覧ください。左側類例で、右側が構造の検討になります。類例の中で、手水鉢型になっているのもあれば、下の2つのように上が膨らんでいるものもあります。上の4つが江戸期のもので、左下は少し新しい大正のものになります。その右のものは、わかりません。構造の検討では、絵図に細長く描かれていることから、類例の中でも幅の小さい240角としました。掘り込みについては、類例の位置が3cm程度のものが多いので、直径18cmとしています。高さについては、絵図では燈籠に比べてそれなりの高さで描かれているので、1.2mと推定しています。設置されるところが平地であることを考えると、若干高いのではないかとも思いますし、この辺は、ご意見をいただきたいところです。

次に木橋についてです。16ページが、木橋の絵図のまとめになります。17ページが、発掘調査の結果になります。18ページが類例です。小石川後樂園、名勝旧大乘院庭園、玉泉院丸庭園、岡山後樂園の4つの類例を挙げています。構造等は似通っているので、旧大乘院庭園を参考にしながら、今回は案を作りました。19ページが、設計条件になります。発掘調査で認められた基礎と橋台を確認しながら、この上に建てていく計画です。

次のページ以降で、4案お示ししています。まず、1案目として、むくりを、旧大乘院庭園と同じR16500に合わせて設定したものです。大乘院庭園よりも横長が短いので同じ形にはなりません、むくりを参考にしたのがAです次にC案です。旧大乘院庭園の端部の勾配を20度程度として、設定した案です。むくりが、Rが8850です。B案は、その中間の案でRを10000としています。D案が、Rを10000で採用しながら、両端の高さを現状に合わせて書いた案になります。アーチが高いほど見栄えがする印象ですが、そういう気がしています。ただ、徒歩で通行をすることを考えると、最大勾配を旧大乘院庭園と同じとしたC案、もしくはそれよりも勾配を小さくしたD案くらいが妥当かと考えています。

24ページは、枝折戸になります。24ページは絵図の検討になります。25ページは構造の検討になります。こちらは絵図から戸は両開きと想定され、飛石が打たれていることから、支柱間は一人が歩ける程度の90cm以上と想定しています。前回の部会で、戸の面が飛石上にくるのか、飛石の間にくるのかが話題になりました。類例では両方のパターンが見られるので、絵図を参考に飛石の間に戸面を持つてくることを考えています。

次、26ページをご覧ください。袖垣です。左側が絵図の比較で、右側が材料の検証になります。図2-56の梅之御間や図2-54の霜傑の袖垣と比較して、線が明瞭で平行に幅広で描かれているのが、余芳の袖垣の特徴になります。そのことから、竹幹を使っているのではないかと考えています。垣面の構成については、竹を垂直に立て、立子として構成されています。押縁は描かれていますが、玉縁は描かれていません。27ページについては、類例と構造の検討になります。袖垣については、竹幹を立子として垣面を構成し、押縁があり玉縁がない栗林公園の建仁寺垣を参考にし、構造を検討していきたいと考えています。

	<p>木橋はまだ途中段階なので、木橋を除くここまでの範囲について、本日ご同意をいただけたら次回の全体整備検討会議に出したいと考えています。よろしくお願いいたします。</p>
丸山座長	<p>これは、余芳まわりのどこまでを範囲に入れて、石造品の話をされているのですか。どこまで、絵図から復元的なものをやるのか。例えば、枝折戸は本当にやるのか、できるのか。余芳が建って、雪見燈籠とか、飛石をやらないといけません。今日出されたのはすべて、どの時期までにやるつもりなのか。やろうという方向性はあるけれども、実際にはできないと思います。今言われた木橋はできません。おそらく、余芳まわりの、どのエリアまでを考えてされているのか、わかりません。</p> <p>というのは、余芳まわりで一番重要なのは、飛石です。石造品は、後でやればいい話で。余芳まわりの飛石、一応計画では出ていますが、それをどうやって行っていくのが書いていないので、よくわかりません。何か知らないけど、余芳まわりの絵図に出てきたものを全部を挙げられています。抜けているものもあります。</p>
平澤オブザーバー	<p>あとは、仕事の順番と、1つの目安になるアジア大会の段階で、どういう状態までもっていくのか。その辺のスケッチがないから。パーツで検討するのは、検討したらいいです。優先は、断ち割りの要になるポイントが先だと思います。実際には飛石も打たないといけませんし、ということだと思います。</p>
丸山座長	<p>完成形は、できないと思います。余芳と、今日のところの話とか、石橋があって、池の周りの修復ができたとして、それ以外のところを個別にこれって決められているが、立ち手水などは、慌ててやる必要はないです。どこを主体としてやるのか、見えてこないです。</p>
仲副座長	<p>余芳ではお茶事を予定しているのですか。</p>
丸山座長	<p>そのようなのはないです。お茶事はできません。</p>
事務局	<p>特別公開は隅櫓等、お祭りのタイミングで公開しています。余芳は完成後、基本的には、そういうタイミングで観ていただいたり、立ち寄っていただいたり、本物を復元したところを観ていただくことを考えています。</p>
丸山座長	<p>それは活用計画の中で何に使うのかは決まっています。一応復元的に建てるけれども、それをどうこれから活かすかという話は、詰まっている話ではないと思います。手水鉢があるので、あそこは茶事ではなく、むしろ休憩所です。</p> <p>そういうことも含めて、まだできていない段階で進めるのではなくて、余芳ができて、余芳のまわりの、この前も野村さんに検討してもらった手水です。燈籠は入ると。それ以外にどれを、余芳まわりを整備するのか。まだ決まっています。今日出てきているのは、あのあたりの石造品で、ほかにも雪見燈籠など燈籠もあります。燈籠を全部復元するのかどうか。</p>

平澤オブザーバー	燈籠は全部はやらないです。やらないですが、余芳まわりは、密度濃くやったほうがいいってことがあります。
丸山座長	どこまでやるかです。アジア大会までに整備ですか。
事務局	この整備計画の中や第 36 回の庭園部会でも少しお示ししています。その中で優先的に整備する石造物を、過去の会議でもご議論いただきました。ある程度その中で、余芳まわりを濃くつけています。その時に定めて、優先的に復元するものを決めているので、今はそれに向かってという考えでおります。
丸山座長	やはり飛石は、造成が先で、どういう完成度になるのかは、飛石自体は、そこのコケか、ササか、島か。
事務局	それは以前にこういう感じでやっていきます、っていうことで、部会で先生方に了解を得ました。
平澤オブザーバー	仕上がりはいいけれど、一度に、例えばアジア大会を目途としたときに、そこまで全部できないでしょう、って座長はおっしゃっているわけです。 段階的に、アジア大会を目途とした場合がどういう状態で、最終的にはこうなります、というのを抑えておけば、仕事の手順が示されるでしょう。その資料があったほうがいいです。 一気にこの絵にします、ということはできないのだから。アジア大会までにも、ここまではもっていけないです。多分ね。 橋が間に合うかどうかは、相当問題がありますので、橋はあとでお話します。限られた時間の中で、ある段階で来場者に観てもらふ姿が、1回スケッチがいるのではないかとということです。その中で、やはり飛石は全部打っておくのだろうと、そういうことです。
丸山座長	全部ではないけれども、来てもらった人に見せる、ある程度見せられる状況をつくらないといけないです。 それぞれ予算もあるし。150cmの雪見燈籠がそれだけで高い気もします。事務局としては、どこまで見せられるかのところで、余芳まわりを整備したい、ということであれば、考えないといけないです。飛石だけ全部はできないと思いますので、まわりのところの雰囲気があれば、そこはやると。植栽もあります。特にここは地被とか、間のものをある程度やらないと様にならないです。 それが、今日はいっぱい、てんこ盛りにあるけれど、全部はできません。
平澤オブザーバー	前回からです。少なくとも余芳、本物が再建されるのだから、少なくとも西側の、お茶室が向いている側が一定程度景がまとまっていないと、というのがあります。東側は基礎造成くらいしておいてほっておくとしても、西側や、今日やっていた、これから発掘調査を行う接続のところ。橋は多分間に合わない。そうすると、東の池の北岸から余芳に至るあたりは1つのまとまりで、2年後、ある程度見せられるように。あ

	とで変化しても、例えば、雪見燈籠は少し予算的にも多めだから、おしておくとか。という手はあるかもしれないと思います。
丸山座長	今、平澤さんが言われたが、お客さんに東から西に向かって見せるとすると、土地を造成しないといけません。まずは。トン土のうをいつまでも置いておいてはいけません。造成が一番急がれる。余芳の前の築山みたいなところがありますが、ああいうのは早めに造っておかないといけません。土地造成が早く終わって、その後余芳まわりの飛石を打っていく。飛石全部はできないけれど、どこまで打ったらいいでしょうか。
平澤オブザーバー	今出ている図でいうと、北側、東側、南側の延段などは後回しにして、東の筋につながる飛石や、茶室の、余芳の西向かいにある小さい築山のあたりは、ある程度仕上げないといけなかいと思います。今日、現地で検討したこの燈籠は後回しにするとか。あそこは雪見燈籠よりも上のところの始末をつけないと、とてもじゃないが今の状態では見せられないです。
丸山座長	雪見燈籠の前の築山の土のうを撤去して、今のうちに造成をしておかないといけません。
平澤オブザーバー	手順としてはそうです。
丸山座長	それは、来年度できる作業量を考えてもらいたい。今日の議案はいずれ役に立つと思うが、今これを検討していたら、来年度どこまでやるのかという計画を立てなかったら、進まないと思います。お金のこともあるし。150 cmの燈籠は、何百万もするかもしれないから、できないかもしれない。石橋を検討したが、石橋の手前側から下りていく階段が絵図にあります。その整備をやるのかどうか。とりあえず東側の池関係のまわりはしないといけません。早急にどこまで予算との兼ね合いでできるのかどうかは、絶対にここまではやらないといけません線を出してもらいたいです。
平澤オブザーバー	いったんアジア大会が1つの時期的な目安になりますから、会期中に見てもらふ姿を考えたほうがいいかと思います。そうすると仕事の順番が決まってくるというのがあります。
丸山座長	この段階でも、植栽は、樹木はやめておく。骨格だけにしたほうがいいと思います。そうしないと、とても間に合いません。トン土のうがあれだけ並んでいるだけ、あれを撤去して造成するだけでも大変だと思います。その後芝にするのか。芝があったほうがいいです。どう見せるかを念頭におきながら、予算との関係で、余芳があれだけできているし、どうするのだろうと思います。あそこトン土のうの土をそのまま使えたらいいけれど、それにしても造成しないといけません。確か絵図にも景石がいくつかあったと思います。それを入れられるのか。そういう計画を作ることができるのかという話もあります。段取りとい

	うか。
事務局	<p>現場でも少しお話しましたが、言われるとおりに今挙げている議題のものを全部できるかといえば、多分難しいと思います。ただ、ある程度、前倒しで今、資料3を含めてですがやりますとって、蓋を開けたときにどこまでかは、実際は決まってくると思います。</p> <p>そのタイミングで、最初から、アジア大会までは最低限ここまでというのではなくて。</p>
平澤オブザーバー	仕事の順番を整えてください。
丸山座長	予算を取るのに、いろいろ書かなければいけないのは、よくわかっています。
平澤オブザーバー	仕事の順番をある程度スケッチしておけば、予算の都合でどこまでできるのかが見えてきます。
事務局	言われるとおりに、造成が最初に来ると思います。造成が終われば飛石ですが、飛石の範囲を含めて、フィックスゾーンと、余裕があればここまでやりたいという段階的な範囲です。
平澤オブザーバー	この会議でも何回もいっていますが、地割の要を先に押さえて、そこに地物が張り付いてくるかたちになるので、端から造っていくことはできないです。端からは造れないので、範囲でできないかもしれないです。仕事の手順です。
丸山座長	<p>ここをまず造成です。それと、池まわりの立ち上がったタタキを修復しないとイケないです。それだけで大変です。もちろん予算要求のためのものは作っておいていいと思います。</p> <p>実際に始まった時に、これはこれで置いておいて。どう段取りとしてやるのか。土地の造成もできていないのにとっています。でも、土地の造成をする前に、立ち上がりのタタキは修復しないとイケないです。造成して、土がないとイケないでしょう。一番いいのは、今日範囲を広げてもらったところの発掘による知見と、そこを修復していくことだと思います。</p> <p>今も、擬木があります。あれは取らないとイケないです。あれはいらなないです。</p>
仲副座長	どこのことですか。
丸山座長	発掘して、写真で東の端っこのほうにあります。あれは取らないとイケないです。
平澤オブザーバー	どっちにしても話を戻せば、今絵に描いてある範囲をどういう手順でやるのか。シミュレーションを、段階をある程度いくつか、5段階くらいですか。

事務局	ステップ図的なものですね。
平澤オブザーバー	それがないと、仕事の前後関係を確認しづらいです。
事務局	計画としては、第 36 回で議論していただいたものがありますので、そういったものをどうやって実現していくのかということですね。
平澤オブザーバー	実際の実施計画のかたちを資料にしてもらったほうが良いと思います。
丸山座長	工程表みたいなものを作ってください。
平澤オブザーバー	工程表より図のほうが良いと思います。
事務局	工程表とステップ図で、第 1 ステップではこういう姿で、第 2 ステップではこうです、どこまで、第 2 なのか第 3 までは絶対いきたいです、というかたちでお示します。
平澤オブザーバー	どっちにしても、ある程度まとまって、マストな部分があるわけじゃないですか。余芳は再建できたけれど、手前の手水がないとかいうのは、いけないと思うので、余芳の再建エリアの中でも、1つのまとまったもので絶対にやらないといけない範囲はあると思います。
丸山座長	余芳の場合だと、この前、野村さんに仮に見てもらった手水と、燈籠はありますね。それと庭のところだと沓脱石とか、そういうレベルです。あとは飛石があるが、飛石まではいっていないから。これは説明してもらわないといけません。
事務局	手水ですか。
丸山座長	余芳まわりの 1 番重要なところで、建築のほうと話し合いながら、ここまではやるという話です。
事務局	8 月 8 日に、丸山先生と野村先生に立ち会っていただき、余芳の手水の役石の仮組を行いました。 このような状況で、こちらが最終的な形になります。
丸山座長	個人のお宅からもらったものです。
事務局	この図を 3D 化して、上から見た図です。こちらが横から見た図です。少し角度を変えた図です。
事務局	左側に余芳の建物がある状態です。少なくともここは、ある程度かたちになりつつありますが、現場がまだ土の状態です。また、これも含めてステップ図を作ります。この工事自体は、余芳の本体工事に入っています。石組までは今年度中には完了します。

丸山座長	四角形燈籠のほうは決まっているのですか。
事務局	燈籠は、まだ決まっています。
丸山座長	まだ決まっています。
事務局	資料の13ページに類例を挙げています。
丸山座長	どの燈籠でいくのか、まだ決まっていますよね。
事務局	そうです。
丸山座長	これは、余芳まわりなので、決めないといけません。この図は部材のほうですね。これは石材店のところですか。
事務局	石材店が保管している石燈籠で、若干背は低いですがけれども。柱が埋まっている形なので、少し上げる感じで。
丸山座長	本体のものに、足りるのか心配なので、それをしたほうが良いです。これだと埋まっているが、どこまで埋まっているかわかりません。実際は短かったりしたら、あそこに合いません。それは、野村さんにも検討してもらって。やはりセットですからね。写真や絵だけでは決められません。ものを見て、手水まわりのものを、仮にありましたら、それを見て決めていくことになると思います。そこまで、余芳まわりで最低限決めないといけません。あとは、竹垣などは適当にやれば良いです。やはり造成です。余芳の前に築山があった。それをきちんとやらないと、景色が出てこない。燈籠部分は来年前半か、今年できれば一番いいですけど。実際は買えないのであれば、どこまでやるのか。ここは造成ができたなら、全体が見渡せるくらいかなり良くなると思います。
事務局	造成をして、飛石のエリアをある程度決めて、あとはある予算でできるところまでやると思っています。その最大限を減らして、今回の袖垣のところまでは、一応議論していただいて、もしやれたらこういうところまでとは思っています。
丸山座長	例えば、余芳の前の袖垣などはいると思います。恰好がつかないから。それは余芳関係で、やることだと思います。未完成ですから、お客さんに今後どこまで見せていくかです。
平澤オブザーバー	各段階で見せ方を合わせて、途中造っている段階も見せていくということです。しかし、ある階段みたいなのがあって、この段階でこういう姿を見てもらう。いくつかのチェックポイントではないですが、そういうものを目安にしないと、なかなか難しいのではないかと思います。
丸山座長	ここは仮にできた後、石造物を入れるなど、市民に見せたらいいと思います。危なくない限り。パフォーマンスで。今、植木屋さんも剪定など、実際に白鳥庭園でやっています。本来なら閉園してからやるのでは

	<p>なくて、開園中に職人さん入れてやる、見せているというやり方だから。そういうのも併せてやられたらいいと思います。</p>
事務局	<p>一度ステップ図を整理し、木橋がどうしてもできないと思いますので、それを施工するエリアなどの範囲を検討すると、先ほどお示していたエリアが全部できるとはとても思っていないです。そういうエリアをしっかりと整理して、再度お示しします。</p>
平澤オブザーバー	<p>木橋の部分、類例の関係の取り扱いが、かなり大きな問題だと思うので、その点についてお話ししたいです。ここでは旧大乘院庭園の反り橋を参考にと書いてあります。あれは30年代から40年代にかけて、もともとは森蘊先生が架けたものです。それがぼろくなったので、つい先ごろ反りがきついで1尺ほど下げて、というのが、今の形です。近世の大乗院庭園の橋から持ってきたものでもなんでもありません。これを参考に構造検討をするのは、今回の例にはふさわしくないです。これは、森蘊先生の最初の整備は、近世の大乗院のイメージで、当時称名寺の反り橋、平橋などの再建などもやっていたから、そのイメージでこの赤い欄干の反り橋が架かっています。ところが大乘院四季真景図や江戸時代の絵を見ると、屋根付きの橋廊下が架かっています。それを再建する根拠がないので、ぼろくなった橋を直すのに、反り具合を1尺ばかり下げてこの形にただけであって。今回の二之丸庭園の実際に架かっている遺構の橋の検討の材料には、まずならないです。</p> <p>類例でいうと、小石川後樂園の通天橋は、意匠、構造と架かっている場所の特質がまったく違うので、今回の類例にはならないです。</p> <p>金沢城跡の玉泉院丸庭園は、先頃再現したものなので、直接の参考にはなりません。</p> <p>岡山後樂園のものは規模が大きすぎて、今回の類例には不適切です。</p> <p>もっとあると思います。栗林公園とかにも、これくらいの小さい橋が架かっているとかあると思います。現地に行かないと、この規模の橋の類例は拾えないかもしれないです。この4例から検討しているのは、説明がまったくつかないかと思えます。特に旧大乘院庭園を参考に絵を描きましたっていうと、旧大乘院庭園に架かっているこの橋自体に根拠が薄いです。中世の形でもないし、もちろん近世の形でもないです。今、限られたこの状態を、どうしてこうするのかというと、橋が架かっていたのは確実なわけですが、現状の検討が、まず資料的にできない。橋脚の架かっている場所の部分を、30年ほど前に発掘調査をしまして、確認をしたけれども、それもなんかよくわからないというのがあります。また、江戸時代の橋の形は、先ほども言いましたが、大乘院四季真景図に描いてある屋根付きの橋廊下みたいなものだったわけです。今の旧大乘院庭園の整備は、江戸時代の地割を、特に西側の発掘調査で近世の池の遺構がよく遺っていることをうけて、近世をベースの地割の構成をした状態の整備です。起源は中世にあります。地割の構成としては近世の形をしている。しかし橋は、もともと森蘊先生がやったのは中世庭園のイメージで、こういう橋の整備をしたところの、修正をただけです。この橋は、全体の今の近世の姿を目安とした整備事業の考え方とはミスマッチの状態なのです。なにせよ、これを参考にとという考え方が、まず説明できない。もう少し、各地にある大名庭園のところに架かっている小さい反り橋、小島に渡るのに少し架けてある橋があります。どれだっ</p>

	すぐには言えないが、栗林公園にもあったし、東京の六義園にもあったかな。浜離宮庭園にも、少し規模は大きいですが、あったと思います。少なくとも、ここに上がっている事例は、どれも適切ではないです。
仲副座長	玄宮園にもありますよね。
平澤オブザーバー	引き継いで、架け替えているものがあります。岡山後樂園は、橋の形もだいぶイメージが違うし、ものすごく大きいです。形はよくって。もう少し小池にちょこっと架かっている橋が結構あります。
丸山座長	これは、復元検討委員会にかけるのですか。
平澤オブザーバー	かけません。
丸山座長	かけられないですよ。
平澤オブザーバー	かける必要もないです。
丸山座長	ない。それはよかったです。
平澤オブザーバー	しかし、説明上、この今の整理は、全然意味がわからないことになります。もう少し、この今の地割の感じからしても、ちょっと渡るための橋ですよ。
仲副座長	5mぐらいですよ。
事務局	6.6mです。
平澤オブザーバー	集めるにしても、もう少し適切な例が、もっと近い例があるはずだと思います。多分、設計上の形は、だいたいこの形でおさまるとは思いますが、検討に際してやはり蓋然性を支えるためには、この4例、特に小石川後樂園の通天橋は、深い谷に渡すために架けてある橋なので、まったく意味が違う橋です。
仲副座長	A、B、C、D案が出ているけれども、イメージとしてどのへんがよさそうかということ聞かれているわけですか。
事務局	形だけが目に入ってしまって、背景等までなかなか検討できていませんでした。
仲副座長	何が違うのですか。
平澤オブザーバー	反りが違います。せいぜいA案ですか。A案くらいでいいのではないかと思います。
仲副座長	反りもそうですけれども、D案は高さが違うのですよ。それを揃えた形で、左右対称のようにすると。

事務局	揃えた形のほうが、左右対称できれいというのがあります。どれだけ保護層というか地盤を取るかによります。
平澤オブザーバー	D案は高さが違うのか。
仲副座長	それは、前回の発掘で遺構面が出てきて、橋台の高さが出ているのではないですか。
事務局	現在、遺構の橋台と礎石は表面に出ています。
仲副座長	高さは違うのですよね。
事務局	高さは違います。
丸山座長	橋のほうは時間がありますから、どういう段取りでやるのかが重要なので、もう少しいろいろな話をしないとイケない。
平澤オブザーバー	橋は、A、B、C、D案で絵が描いてありますが、ちょっと、いかがなものか。
仲副座長	どれかを選んで進めるのですかね。
丸山座長	事務局のほうから、何かお話があると言っていましたよね。
事務局	手水鉢の遺構の遺物から、海のタタキにベンガラが入っているかどうかの検証を、調査研究センターで行いました。結果が出ましたので、酒井さんから説明していただきます。
事務局	<p>過去の発掘調査で、余芳の手水の海の部分が出土しています。これが出土品としては一番大きいものになりますが、ここが少し赤くなっているということで、丸山座長からも、これがベンガラなのか、それとも辰砂なのかというご質問がありました。これについて分析をかけ、先週、名古屋市の工業研究所で蛍光X線分析をしてきました。その結果を簡単にご報告します。</p> <p>構造としては、白色の部分と赤色の部分があって、この一番表面が風化している状態です。これが横から見たものです。表面が、5mm程度赤くなっている状況です。これが内側で、こちらが外側です。黒色、灰色、透明ばい礫が赤色の部分に混ざっています。今の石が1番大きいものですが、分析器に入らないため、これと同じような構造の破片でもう少し小さい破片を分析器にかけました。白色の部分測定1、赤色の部分を測定2、表面の部分測定3として、3か所測定しました。</p> <p>その結果です。白色の部分を見ると、カルシウム分が非常に突出しており、60～70%です。ケイ素は何にでも入っていて、礫やそういったものの成分でカルシウムが多いのが特徴的で、元素としてはカルシウムですが、化合物としては、おそらく炭酸カルシウムです。CaCO₃が含まれている。具体的には石英などを含む土に、消石灰を混ぜたもので、いわゆるタタキといっているものと考えられます。</p>

	<p>次に、赤色の部分を測定すると、カルシウムもありますが、鉄が含まれていることがわかりました。ケイ素もありますけれども、鉄が出ましたので、赤色の成分については酸化第二鉄、ベンガラであろうと考えられます。朱だと水銀が入ってくるはずですが、検出されていないです。あれば検出されますが、出てこないのも、ベンガラでいいだろうと思います。ただベンガラだけでなく、カルシウム分もかなり入っています。表面にベンガラを塗っているだけではなくて、先ほどのタタキの成分にベンガラを混ぜ込んで表面に使っていると考えられます。表面についても同じような結果です。鉄とカルシウム、ケイ素が高く、ケイ素が高いのは、小さい礫の成分を拾っているのも無視してもいいかと思います。カルシウムと鉄、ベンガラを混ぜたものを表面に使っていることが、結論としてわかりました。多春園で、化粧タタキなどで赤色の部分がありました。これは現地で成分分析を、当時行ったようです。これも同様にベンガラが検出されているので、同じかたちで施工されているのかと考えています。今後は、ベンガラとタタキを用い復元していきたいと考えています。表面の色はかなり風化しているので、こちらの赤色のほうを目指していくことを考えています。</p> <p>以上、簡単ではありますが、ご報告でした。</p>
平澤オブザーバー	これは、海の部分の縁と、底の部分も赤くなっているのですか。
事務局	そうです。
丸山座長	<p>最初発掘されたとき底も、だから今度は練り込んだものを成形してもらったほうがいいです。</p> <p>今日いろいろ議論がありましたが、シナリオ通りにはいっていませんが。一応、全体整備検討会議に出してもらって、発掘の話は。整備についても、木橋はまだまだ検討しないといけないですが、今後の2年間の間にどこまで雰囲気といいますか、余芳周辺の状況を進めてもらえるかということで、事務局にお返ししたいと思います。</p>
平澤オブザーバー	確認したほうがいいのではないですか。石橋は、だいたいた方向が決まったわけですね。
丸山座長	はい、石橋は決まりました。
平澤オブザーバー	雪見燈籠も、一応決まりました。道標というか、立ち手水みたいなものがどっちかというのが、前回の議論にもあったので、15ページものいいのかの議論は、また次回に同じことになってしまうので、15ページの道標の形で一応、今の時点でいいのか、決めたほうがいいのではないですか。
丸山座長	下の2つは近世ではないので、出っ張っているのではなくて、手水として掘り込んでいるということですね。
平澤オブザーバー	類例のまん中の左みたいな感じですね。

丸山座長	そうです。
平澤オブザーバー	木橋は、問題が満載しているので、もともと再検討をされたほうがいいです。
丸山座長	標柱も掘り込んでいるのですが、この深さや幅は、どこから出てきたのですか。
事務局	掘り込みの幅については、鉢の縁が3cm程度で。
平澤オブザーバー	1寸ぐらいですね。1寸ぐらいないと欠けてしまいます。
丸山座長	欠けます。もう少しあったほうがいいかもしれない。
平澤オブザーバー	もう少しあったほうがいいかもしれないです。
丸山座長	結構、少し深いと思いました。これは垂直に下りていますが、お椀型のほうが安定するのではないですか。
事務局	類例から判断しているところがあります。
丸山座長	垂直に掘り込むのではなくて、これ、お椀型みたいになっていますので、お椀型にしておいてもらったほうが安全ではないですか。左、上から2つ目か。一応、そうしていただいて。上の2つは、手水です。
平澤オブザーバー	完全なる手水ですから違います。
丸山座長	手水だから、立ち手水とは、言わないと思います。左の上から2番目が、ここの中では近いと思います。
事務局	大阪府の堺市の道標です。
丸山座長	それと木橋のほうは、少し。
平澤オブザーバー	16ページから23ページは、やり直しです。それから24ページですか。
丸山座長	枝折戸は、どうしますか。
平澤オブザーバー	前回と違って、25ページに絵を描いてもらっていますね。
丸山座長	蓬左文庫にある藩籙譜に300種類の竹垣の図集があります。それを見たら、出てきたような袖垣がいっぱいあります。見ましたか。
事務局	藩籙譜の課題をいただいてから、コンサルさんに国会図書館で調べていただいています。

丸山座長	ああそうですか、国会にもあります。藩籬譜、名前がいろいろ変わっているの、小沢圭次郎が集めたものとか。国会のものは全部出ているのですか。300種類、出ていますか。それなら、そこでもいいです。結構似ているのがあるでしょう。
事務局	43 あると先生は言われていましたが、42 しか見つけられませんでした。袖垣は、今回の用途とはタイプが違って、材料に竹を使っているものを、右手に抜粋しました。その中から類例としては上の部分が建仁寺に近いと。抜粋して整理した状態です。
平澤オブザーバー	袖垣のほうは、この間職人さんに聞いたら、この2、3年で材料があまり手に入らない状況になってきていて、別件があって、いくらかいかかるのかなって、袖垣など聞いてみて、袖垣はそんなに材料がかからないのだけれども、この間やった仕事で仕入れのところに聞いたら、これで最後ですよ、って言われたとか言っていました。そういう状況も、今あるみたいです。
丸山座長	名古屋も竹屋さんあるが、京都の竹屋で結構古いのを持っています。例えば、黒文字垣ってありますが、黒文字がなかなか国内では、昔は東山の辺で採れたが、今は台湾から輸入しているそうです。枝折戸や袖垣は、別に慌ててやる必要はないです。
事務局	名古屋だと、臼井さんか、竹甚さんか、竹屋さんは2つくらい。本当に今材料が少ないです。
平澤オブザーバー	そう、材料がないって言われました。
事務局	あと、台湾熊蜂っていう黒い蜂が最近、竹に入るのも問題になっています。
丸山座長	そうそう、穴ではないけれど。
野村オブザーバー	縦だったら入るみたいね。横だと入りませんよね。
事務局	入らないです。大きい半割れは入ってしまいます。
野村オブザーバー	ちょっと別の問題だけどね。
丸山座長	袖垣くらいの竹が一番入りやすいようです。これはまた、次の段階で見てもらいたいと思います。袖垣は、余芳の関係のところは少し使いたいです。建築のほうと相談しないといけないです。袖垣のことはまだ、話し合いにはなっていないですよ。
事務局	話し合っていないです。
平澤オブザーバー	検討の方向に問題がなければ、これでいいのではないかと思います。

丸山座長	これでいいです。
平澤オブザーバー	最終的にどうするのかは、検討していただければいいと思います。さっきの橋の問題は、検討のかけ方がまずいという問題があります。
丸山座長	橋以外はいいです。
事務局	標柱の高さについては、今 1.2m でセットしていますが、900 がいいのか 1200 がいいのか、どうなのかというところがあります。
丸山座長	もともとの資料は、どのくらいの高さですか。
平澤オブザーバー	高めに書いてあるのですよね。14 ページに書いてあります。
丸山座長	高くても、埋めるわけでしょう。最大限高めにして、現場で高さは調整できるから。低くしたら、埋めてしまうから。
平澤オブザーバー	一応、材寸としては、これを用意しておいて、あとは現場で据え付け、高さを調整、でいいのではないですか。
事務局	立ち手水として使える高さにします。
平澤オブザーバー	基本寸法をこういうふうにしておいて、地割の立体的なあり方との関係性、構成をきちんとすると、高すぎるのではないかとかの感じも多分あると思います。
丸山座長	これは高めにやっておいてもらって、あとは埋めればいいわけだから、そんなに心配はしていません。
平澤オブザーバー	この絵の描きぶりからすると 3 尺だと低すぎるように思います。
	3 尺は低いです。標柱の文字は、絵図に出ていますか。
事務局	文字は出ています。
丸山座長	それは掘ることになるのですか。
事務局	東西南北です。
丸山座長	それだけですか。
事務局	だけです。絵図では西と南という表現です。
平澤オブザーバー	フォントみたいにならないように。
丸山座長	これ、今石屋さんに頼んだら、砂の高压でぶわーっとやって、穴をあけて。お墓の石ってよく見ると、そのまま凹んでいます。細かく言いた

	すと、それは本当はおかしいので、だから、掘ってもらわないといけません。
事務局	絵図を参考に。
平澤オブザーバー	全部を手彫りですする必要はないです。仕上げは手彫りにしてほしいです。
丸山座長	砂の高圧でやって、そのあと描いてもらって。
仲副座長	砂のほうは、ほぼ垂直に。
丸山座長	垂直です。
仲副座長	手彫りは、こうだと。
丸山座長	お金を節約するには、
仲副座長	ああ、広げるわけね。
丸山座長	砂である程度広げて、
仲副座長	細目に彫って、そういうことですね。
丸山座長	ちょっと、せこいですけど。
平澤オブザーバー	最初から手彫りだと、掘る量が多いので、支障のない骨格の部分まで機械彫りにしてもらおうといいかもしれません。
丸山座長	このへんは、石材店はどうされているのか聞いた方がいいです。
野村オブザーバー	ある程度は機械でやっていた。切って、それから手彫りの部分をやっていた。効率の悪いことはやっていないです。
丸山座長	雪見燈籠は高いが、橋以外は、そんなに高くはないでしょうけど。こんなところですか。
事務局	現場でお話はありました雪見燈籠 - 2 です。10 ページです。
平澤オブザーバー	余芳の前の燈籠ですね。
事務局)	そうです。古材事例で写真が載っているのが、石材店のところにあつたものです。脚が、どうしても猫脚といわれる脚が多くて、場合によっては3尺なら結構数もいろいろあるので、脚だけ作って、上だけ古材を使う手もあるという話をしていました。方向性としては、そういう方向性もあるかと思いますが。

丸山座長	この図の雪見は、雪見としては不細工です。
事務局	脚がこう丸まっいて、そうですね
丸山座長	ここのは、まだましかれど。
平澤オブザーバー	右側に写っているのは、いいのではないですか。これはもっと、かなり小さい感じですか。
事務局	4つ脚です。3つ脚というのがあまり、ないです。
丸山座長	余芳の前だから、高くても3つ脚のほうがいいのではないですか。
事務局	方向性としては、左右間は、900くらい。
丸山座長	古材でなければ、
平澤オブザーバー	池の空間のものが4尺もの。5尺ものか。
事務局	4尺ものがあまり出回ってなくて、やはり少ないらしいです。
丸山座長	これも一応このままでいいですが、造成して、築山などができ始めて、もう1回検討する必要はあると思います。現物を見ないと。
事務局	方向性としては、だいたいよろしいですか。
丸山座長	3本脚でいいと思います。
事務局	3本脚で。
平澤オブザーバー	これは結構お金がかかるのですか。
丸山座長	高いです。石の燈籠を復元したら、とてつもない話です。
事務局	立ち手水ですが、11ページです。築山を造ろうとしていて、余芳のほうから、少し大きめに造って行って、現場で埋めて調整する。
丸山座長	埋めて、高さは調整できると思います。生け込みだから。掘り込みも、お椀型にしておいたらどうですか。水が溜まって、ボウフラがわいてくるからあまり水が溜まらないほうがいいです。 あるところでは、手水でも石を放り込んでいるところがあります。ここでやるかどうかはわからないですけど。
野村オブザーバー	桂離宮も、普段は白川砂利を入れています。
平澤オブザーバー	とりあえず池があれば、蚊はわきます。現に、さっきの現場は蚊がいます。

丸山座長	先の話で、水を溜めて、水をどうするのかというの也有ります。余芳の前の生け込み燈籠は、野村さんにも見ていただいて、どうするのか検討していただきたいです。よろしくお願いします。
野村オブザーバー	はい、わかりました。
丸山座長	高橋さん、何かありますか。
高橋構成員	すいません、少し全体のことを把握できていないこともあります、雪見燈籠-2は、3つ脚でいいのですね。
丸山座長	3つ脚です。
高橋構成員	3つ脚は、決定でいいのですね。
事務局	絵図から3つ脚にしています。ほかの絵図も、ほかのところで4つ脚のものは4つ脚で描かれていますので、こちらは3つ脚でいきたいと考えています。
高橋構成員	わかりました。バランス的に4つ脚でもいいのかなと思ったので。
丸山座長	野村さんに聞いてみたほうがいいです。
野村オブザーバー	私も、4つ脚でもいいのかなと思っていました。
高橋構成員	ほかのものが、確実に4つ足が描かれている状況があるようでしたら、はい。
丸山座長	4つもありますが、この雪見燈籠は、石材店に確認してもらって3つだということでした。
高橋構成員	はい、わかりました。
平澤オブザーバー	4つ脚みたいな雰囲気では描いてあるけれども、3つ脚。
丸山座長	3つ脚。
高橋構成員	前にやったところの発言をさせてもらってもいいですか。
丸山座長	どうぞ。
高橋構成員	発掘調査のところで、タタキ坑をこれから調査されるということで、お示しされていたと思います。タタキにあけられた穴というふうに掲げていますが、その後に飛石の抜き取り痕かがあります。大丈夫かとは思いますが、どちらかという、抜き取りの際にあいた穴ということで、高低を少し想定しながら掘っていただけたらと思いました。 もし、飛石が入っていたものであるとすれば、据付痕跡がタタキの下

	<p>に出てくるイメージになってきます。今後飛石を据えていったり、このタタキとのちりとの関係を見ていくときに、タタキ坑と呼んでいるところの底面の解釈で、少し揺れが出てくるのかもしれないと思いました。すごく大変な調査になるかと思いますが、工程をイメージしながらやっていたらと思います。</p>
事務局	<p>わかりました。</p>
高橋構成員	<p>それ以外は、先生方が発言されたことと重複するので、割愛します。</p>
丸山座長	<p>それでは、事務局へお返しします。</p>
事務局	<p>大変長時間にわたり、ご議論いただきありがとうございました。今回、ご指摘いただきましたステップ図等については次回の部会で、木橋については引き続き部会のほうでご議論いただきたいと思います。今回ご承認された件については、全体整備検討会議に挙げ、現状変更許可の手続きへと、時期を見てにはなりますが進めていきたいと思っています。</p> <p>それでは以上をもちまして、本日の部会を終了いたします。長時間にわたり、誠にありがとうございました。</p>